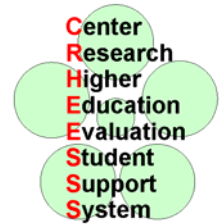


週刊センターニュース No.147



第147号(2007年2月26日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

一橋大大学教育研究開発センターFDシンポ

「教育改善のダイナミクス」参加報告

2007年2月7日(水)一橋大学国立・東キャンパスにて開催された大学教育研究開発センター主催の2006年度第2回全学FDシンポジウム「教育改善のダイナミクス」に参加した。本来、一橋大学の教職員を対象としたものであるが、同時に公開シンポとして、学外からの参加も可能な形で開催された。

まず米国の教育・授業改善の第一人者で、授業改善の具体的手法としてよく知られる「Teaching Portfolio」の概念を開発、その実践方法の普及に多大な貢献をしているペース大学のPeter Seldin教授から「授業評価から授業改善へのメカニズム」と題して、報告がなされた。授業評価に関して、その研究にとどまらず実施においても、「信頼性」「妥当性」「関連性」が何より重要なことである。例えば、学生は教員を適切に評価できるのか(学生による授業評価は安定しており、一貫しているものなのか?)といった疑問がしばしば教員側からもたらされる。この点は、学生の成績や受講者の性別構成、授業規模と授業評価結果の相関などへの注意を払い、また授業評価実施の時期、さらに評価アンケートの書式そのもの(分量や項目の適切さ)に対し十分に検討を経るなら、その評価は信頼に足るもので、学生と教員とのコミュニケーションの一環としても効果があることが分かっている。むしろ重要なのは、教員の全員参加の形をとるか、結果を公表するか、そしてそれらの結果を教員評価(人事)に用いるか、利用する場合のその重みをどの程度のものにするか、といった諸点が解決されるべき事項であると指摘する。さらにいえば、授業評価の結果を(教育)改善につなげていくときに、教員相互の信頼と尊敬を基礎に、大学(学部)の特色・性格に合うよう適切なガイドラインを立てるなど十分に話し合いを行わなければならないと主張した。

次に、授業改善を積極的に進め、「Excellence in Undergraduate Teaching」などの受賞経験もあるノーザンイリノイ大学のElizabeth Miller 助教授から「授業改善に結びつく評価」のあり方について報告があった。基本的な主張として、単独の情報(一時点だけの授業評価アンケート)だけでは不十分で、複数の方法を用いて、チェックアンドバランスの仕組みを作ることが重要であると述べる。複数の方法をとることで、異なる視点からの情報が提示され得るわけで、一般的な方法として、学期途中のフィードバック 学期末の授業評価 自己評価 授業観察を挙げた。「学期途中のフィードバック」に関しては、学生にも授業方法について考えてもらい、教員は必要に応じて授業を修正するなど柔軟な姿勢をとることが必要であるということである。「自己評価」については、学生との意見との比較を可能にするもので、さらに個人の目標と実際の教育実践とを比較する機会を提供してくれるので、体系的にそれらを組み込むことを勧めている。最後の「(他教員による)授業観察」(逆に他教員の授業観察も含めてよいであろう)については、何を改善することができるのか、何が効果的に機能するものであるのかについて情報を提供してくれること、また学生と教員が授業で観察すること(焦点)は異なっていて、授業改善の有効な情報を提供してくれると指摘した。

文部科学省の平成18年度の調査によると、2年前には国公立大学の約97%の割合で、学生によ

る授業評価が行われている一方で、それらの結果を教育改善に活かす組織的な取組は、まだ半数の大学にとどまっていると指摘されている。評価をいかにして個々の授業そして大学全体としての教育の改善へと結び付けていくのか、学生による授業評価を含めた様々な手法をどのようにして授業改善のためのリソースとして活用すべきか、本学においても、十分に話し合いを行うべきであると思われる。

(文責 評価システム研究部門 渡辺達雄)

センター図書室 新着図書情報

大学教育開発・支援センター図書室(総合教育棟南棟6階613号室、センター共同室の向かい側です)に、以下の図書が入りました。是非ご活用下さい。

【大学教育論・FD関連】

- ・ 大学授業の病理:FD批判 / 宇佐美寛(東信堂)2004年
- ・ 現代大学生論:ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる / 溝上慎一(日本放送出版協会)2004年
- ・ 学生の学びを支援する大学教育 / 溝上慎一(東信堂)2004年
- ・ 大学教授の職業倫理 / 別府昭郎(東信堂)2005年
- ・ 現代大学教育論 :学生・授業・実施組織 / 山内乾史(東信堂)2004年
- ・ 一年次「導入」教育の日米比較 / 山田礼子(東信堂)2005年
- ・ 社会人大学院で何を学ぶか / 山田礼子(岩波書店)2002年
- ・ 大学授業を活性化する方法 / 杉江修治ほか 編著(玉川大学出版部)2004年

【大学評価】

- ・ 新しい時代を切り拓く大学評価 / 秦由美子編著(東信堂)2005年
- ・ よく分かる大学の認証評価 / 早田幸政・船戸高樹編著(エイデル研究所)2007年

【大学と社会、制度論】

- ・ 知識基盤社会と大学の挑戦:国立大学法人化を超えて / 佐々木毅(東京大学出版会)2006年
- ・ 地域社会に貢献する大学 / OECD編,相原総一郎ほか訳(玉川大学出版部)2005年
- ・ 高校と大学の接続 / 荒井克弘・橋本昭彦編著(玉川大学出版部)2005年

【外国の高等教育事情】

- ・ 変わりゆくイギリスの大学 / 秦由美子(学文社)2001年
- ・ 戦後オーストラリアの高等教育改革研究 / 杉本和弘(東信堂)2003年
- ・ アジア・オセアニアの高等教育 / 馬越徹編(玉川大学出版部)2004年
- ・ 私学高等教育の潮流 / P・G・アルトバック編著、森利枝訳(玉川大学出版部)2000年

FD等の資料提供に関するお願い

当センターでは、国内外を問わず、大学教育に関する資料の収集を行っております。各学部のFD資料などご寄贈いただければ幸いです。また、本センター図書室に所蔵されています図書・資料の貸出・閲覧が可能ですので、是非ともご活用下さい。

「教育相談室」利用のお願い

当センターでは、本学の教育改善に資するため、教職員の方々からのご相談に応じております。またご相談への対応を充実したものとするため、漸次アーカイブ資料(共同学習会や各種セミナーの録画テープ・配布資料など)を整理・保存しております。そのリストは、当センターWeb上「教育相談室」(http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daiyou_rche/counsel/counsel.htm)に掲載されています。リストに挙がっているものは、ご希望に応じ、貸出しも致します。原則的に個人の教育改善研究用としておりますので、各部署等单位でのFD等に利用される際には、別途ご相談ください。